

五位組 親鸞聖人七百五十回 大遠忌 お待ち受け法要 勤修

2010年
(平成22年)
9月1日

五位組だより

念仏のこころに生きる生活を

浄土真宗本願寺派
高岡教区 五位組

題字・織田隆夫



平成22年4月11日 宗祖讃仰作法(音楽法要) 石堤 長光寺

「五位組だより」発行ご挨拶

高岡教区五位組 組長 織田隆夫

門信徒の皆様には、平素より宗門の護持、発展にご尽力頂きまことにありがとうございます。でございます。

この度、五位組におきまして「五位組だより」の発行を致すこととなりました。発行に当っては五位組門徒推進員の皆様にご多大なるご尽力を頂いたこと衷心より御礼申し上げます。

「五位組」とは、門信徒の皆様には聞きなれない名前ではありますが、浄土真宗本願寺派では、全国一万三百の寺院を、三十一の「教区」(都道府県に相当)、五百三十三の「組」(市町村に相当)に分けて運営をしております。私たちはその中の「高岡教区・五位組」に属し、この「五位組だより」の発行を企画いたしました。今、私たちの生活の中で浄土真宗の教学は、得てして大変難しいと捉えられがちです。それは人間の欲望や願望に応えようとする教えでは無いからにほかなりません。

振り返ってみると、私たちがお念仏に出会っていた場所はいつも家庭や在所やお寺など身近な人々の中にあつて、なにげない日々の生活の中であつたような気がします。それは、「お互いに支えあう関係」「念仏を伝えるコミュニティー」があつたからではないでしょうか。しかし、最近はなかなか日々の生活の中で自然にみ教えが伝わっていくことが難しくなっています。

ご門主は、ご消息の中で、「人々の悩みや思いを受け止め共有する広い心を養い、お互いに支えあう組織を育て、み教えを伝えなければなりません。」とお示し頂き、その基本的な環境の大切さを我々に問いかけられておられます。

この「五位組だより」発行がこれからどんな絆を作り上げるものかはりません。しかし、同じ地域に生活し、同じ親鸞聖人のみ教えに出会った仲間が、今一度自分たちの絆は何であったかを確かめ合い、仏法に触れ合う機縁となれば幸いです。

合掌

親鸞聖人750回大遠忌 お待ち受け法要 勤修

去る四月十一日（日）、石堤の長光寺にて「五位組 親鸞聖人七百五十回 大遠忌 お待ち受け法要」が勤まった。当日は小雨の降る寒い日となったが、総勢七百五十名の参加があり、盛大に勤まった。

法要は、「宗祖讃迎作法 音楽法要」をお勤めし、四十人のコーラス部や門信徒と共に正信偈を高らかにおつとめした。続いて本願寺布教使の福間義朝師の聖人の願いと御念仏が一つになる心に染み渡る御法話をいただいた。また、庫裏廊下や境内では、チャリティーオークションやバザーを行い、その売上金は高岡市内にある障害者福祉施設に寄付した。今回の法要により、組内における大遠忌に向けての機運は高まったと考えられる。

しかし、その一方で今後は私たち教団が社会の変化に対応しうる施策を提示できるかが問われることになると思われる。



記念法話 備後教区 福間義朝 師



チャリティーオークションの作品



チャリティーバザー

第十二回 夏休み子ども大会 開催

去る七月二十七日（火）、福岡町土屋の珉照寺にて「五位組 第十二回 夏休み子ども大会」が開催されました。午前九時から組内の小学生を中心とした子どもたちが集まり、最初は合掌礼拝の仕方などを学び、続いて「十二礼」を元気よくお勤めしました。その後は、ゲームや自転車のBMXショー、紙芝居（法話）や仏教讃歌の練習といったプログラムで大会は進行されました。

特に、自転車のBMXショーでは、世界でも活躍するライダー達に来ていただき、世界レベルのテクニクを披露してくれました。子どもたちは間近に見ることができて、大喜びでした。

また、紙芝居（法話）も、子供達は熱心に聞き入っていました。

五位組の子ども大会は毎年夏休み期間中に開催され、今回で十二回目を数えました。今後も継続していき、五位組内の少年教化を進めていきたいと思います。



法話の紙芝居



自転車のBMXショー

報 恩 講 ご 案 内

報恩講は、宗祖親鸞聖人の遺徳をたたえ、その恩を報ずる法要である。

親鸞聖人三十三回忌に際し、報恩講と名付けられて以来、毎年宗祖のご命日を縁として、脈々と営まれ続けている。

親鸞聖人は、阿弥陀如来の本願の教えを明らかにされ、その九十年のご生涯を、念仏の道ひとすじに歩まれた。今、私たちが、浄土真宗の救いのよろこびにあえたことも、聖人のご苦勞のたまものである。

報恩講に際し、蓮如上人はお示しになられた。

すみやかに本願真実の他力信心をとりて、わが身の今度の報土往生を決定せしめんこそ、まことに聖人報恩謝徳の懇志にあひかなうべけれ

他力の信心を得て浄土の往生を決定することこそ、親鸞聖人のご恩に対するなによりの報謝となるのである。

「拝読 浄土真宗のみ教え」より

各寺院の報恩講の日程をお知らせします。

どうぞお誘い合わせのうえお参りください。

※ 開催日順に記載してあります。

石堤 法善寺

九月二十五日 朝 九時三十分 昼 二時
九月二十六日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 高岡市戸出 林 要昭 師
※二十六日は祠堂経法要

赤丸 性宗寺

十月十一日 昼 二時 夜 七時三十分
十月十二日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 射水市市井 公文名 眞 師

四日市 浄明寺

十月十四日 昼 二時 夜 七時
十月十五日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 射水市市井 公文名 眞 師

辻 西福寺

十月十六日 昼 二時
十月十七日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 高岡市伏木 山名 一徳 師

立野 永念寺

十月二十日 昼 二時
十月二十一日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 小矢部市興法寺 立川 証 師

三日市 光源寺

十月二十二日 昼 二時 夜 七時三十分
十月二十三日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 高岡市佐加野 磯原 孝雄 師

本保 本正寺

十月二十六日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 高岡市内島 岡西 法英 師

佐加野 光明寺

十月二十七日 昼 二時 夜 七時
十月二十八日 朝 九時三十分
法話 高岡市内島 岡西 法英 師

内島 教願寺

十月三十日 昼 二時 夜 七時
十月三十一日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 高岡市伏木 山名 一徳 師
※三十一日は、蓮如上人五百回遠忌法要及び親鸞聖人七百五十回大遠忌法要

石堤 長光寺

十一月一日 昼 二時
十一月二日 朝 九時三十分 昼 二時
夜 七時
十一月三日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 氷見市布施 圓山 清師

中保 善教寺

十一月三日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 氷見市中田 清水 朗師

笹川 廣濟寺

十一月五日 朝 九時三十分 昼 二時
夜 七時
十一月六日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 高岡市伏木 山名 一徳師

麻生谷 西光寺

十一月七日 朝 九時三十分 昼 二時
夜 七時
十一月八日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 福井県福井市 乙坂 晃寿師

上向田 浄永寺

十一月十一日 昼 二時
十一月十二日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 氷見市協 寺西 良夫師

山岸 珉照寺

十一月十六日 昼 二時 夜 七時三十分
十一月十七日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 高岡市伏木 山名 一徳師

舞谷 永賢寺

十一月二十三日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 小矢部市興法寺 立川 証師

お斎等の詳細については、各寺院にお問い合わせ
わけください。

◆◆◆ 五位組行事予定 ◆◆◆

蓮門会

テーマ『歎異抄を学ぶ』
講師 岡西 法英師
二〇一〇年
十月三日 十六時 廣濟寺
二〇一一年
二月十三日 十五時 珉照寺

基幹運動研修会

二〇一一年
二月六日 十五時 長光寺

門徒総代研修会

二〇一一年
二月十七日～十八日 場所未定

門徒推進員研修会

二〇一〇年
十月九日 二時 珉照寺
講師 公文名 眞師

歴史講座

二〇一一年
三月六日 十九時 長光寺

本山団体参拝

二〇一一年
(平成二十三年)
四月十日～十一日
申し込みは、十二月末まで

編集後記

皆様に、親しまれる「五位組だより」をこのたび発行することになりました。

内容を編集委員一同協議し、豊富な内容に編集できました。

また、ご多忙中に関わらず原稿をお寄せくださいました方々に編集委員一同深く感謝いたします。何分初めての発行で素人編集のため、まとまりのない箇所もあると存じます。

今後とも、宜しくお問い合わせ致します。